

1996年10月5日[土]—12月23日[月]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

()内は20名以上の団体料金 65歳以上の方160円

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

世田谷美術館開館10周年記念

アトリエ館特別無料入館日

10月5日(土)—10月13日(日)



《雲とみ仏たち(中国大同雲崗)》1980年

向井潤吉
の描いた

中国の石仏と風土

中国の石仏と風土

このたび向井潤吉アトリエ館では、「向井潤吉の描いた 中国の石仏と風土」展を開催いたします。

本展では、向井潤吉先生が昭和41年(1966)に、訪中日本美術家代表団(団長宮川寅雄)の一員として中国を訪問した際に制作された諸作品をご紹介します。

油彩作品では、大同に取材した『雲とみ仏たち』、洛陽に取材した『小鳥とみ仏たち』、蘇州に取材した『塔と壁』といった中国シリーズの代表作において、いずれも大きな画面に、雄大で豊かな時の流れを感じさせる迫真の表現が結実しており、長年にわたって日本の民家を描き続けてきた画家の新境地を、そこに感じることができます。

また素描作品では、永い永い星霜を経てもなお、いにしへの工人が残した造形美を、生き生きとして今に伝える仏の姿に魅せられた画家の感動が、繊細な筆致によって率直に表現されています。

そして、中国の古い街並や集落を描いた素描作品では、道にそって建つ石壁のたたずまいや、^{いらが}甍をいただく緑深き山村の風景が、土地に生きる人々の息づかいを伝えながら表現されています。

本展ではこのほかに、日本の民家を描いた油彩作品、素描作品もあわせて展示し、向井潤吉先生の画家としての視線が、異なる二つの風土をどのようにとらえたのかを、ご覧いただきたいと存じます。



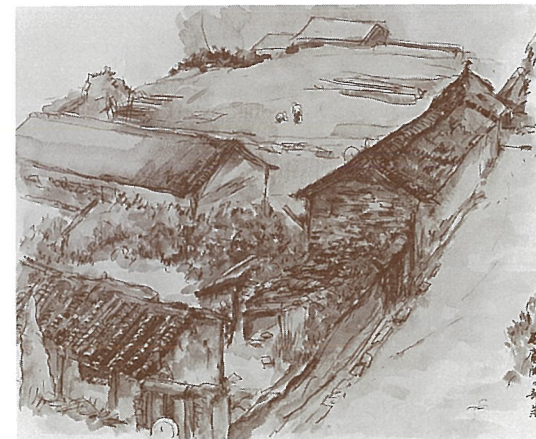
『小鳥とみ仏たち(中国洛陽龍門)』1981年



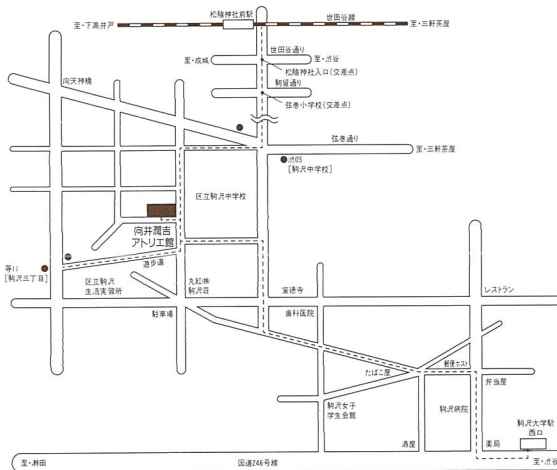
『塔と壁(中国蘇州)』1982年



『八達嶺望見(中国北京)』1966年



『居庸関の部落(中国北京)』1966年



●最寄り交通機関のご案内

東急新玉川線【駒沢大学】 駅西口 下車/徒歩10分

東急世田谷線【松陰神社前】 駅 下車/徒歩17分

東急バス (法05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分

東急バス (等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分

東急バス (法11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

東急バス (法13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分



『大同の石仏-3』1966年



『大同の石仏-4』1966年

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL 03-5450-9581